

ここいろ
kokoiro

情報誌
2022.5

伊丹市立男女共同参画センター ここいろ は
性別にかかわらず、
個性と能力が発揮できる社会づくりの拠点施設です。
誰もが気軽に訪れ、学び、交流できる、
地域に開かれた男女共同参画センターを
目指しています。

[https://
www.itami-
kokoiro.jp](https://www.itami-kokoiro.jp)

「おセイさんの応援歌 田辺聖子が残した宝」

いしの のぶこ
石野伸子さん



昨年12月、田辺聖子の若き日の日記が出版されました。

『田辺聖子十八歳の日の記録』(文藝春秋刊)。3年前に亡くなった作家が、かぞえ18歳で書いた日記が、没後の遺品整理の中で発見されたもので、新聞・テレビで紹介されるなど大きな反響を呼びました。

著名作家の日記が没後に発見されることは時にあります。しかし、この田辺日記がとりわけ注目を集めたのは、昭和20年4月から昭和22年3月までという終戦をはさむ激動の時代の綿密な記録であること。さらに当時、樟蔭女子専門学校(現・大阪樟蔭女子大学)の国文科に通う女学生としての生き生きとした感情が綴られ、日記文学として存分に楽しめるものであるからだろうと思います。

「生き生きとした感情」といっても、青春の弾む心だけが書かれているわけではありません。この間、田辺聖子は勤労動員で尼崎の郡是塚口工場に駆り出され、大阪大空襲で大阪市此花区(現・福島区)の実家を焼かれ、ハイカラな写真館経営者だった父親を病気で亡くし、生活に困窮して大学進学をあきらめるという苦しい時間を過ごしています。

しかし、興味深いのは、後に人気作家となる田辺聖子の萌芽がすでにそこそこに見られることです。「月日は水の如く流れ去る。はや、四月も半ばを過ぎた、おととつと私ほうかうかするとすぐこれだ。いやになってしまふ。まだ十三日ではないか」(昭和20年4月13日)といった軽妙な調子。樟蔭の生徒たちは伊丹線稲野駅に近い工場の施設で寮生活をしていて、ときおり休暇をとって各自の家に帰省します。その帰宅途上の伊丹線での出来事。満員電車で友人が肩にかけていた荷物が周囲の邪魔になるというので、運転手が「そんなのは乗る前に身体の前に回しておいて下さい」とくどくどと注意すると、国文科の同級生、「どうも御懇篤な御教訓にあずかりまして」と懇懃(いんぎん)な言葉を返し、周囲から思わず忍び笑いが漏れた(昭和20年4月9日)、というくだりを紹介する筆の滑らかさ。

田辺はこの日記を親しい友人に見せていますが、その友

人たちはこぞって「諧謔(かいぎやく)味があって面白い」と感想を述べています。諧謔。まさにその言葉こそ、その後の田辺文学の魅力を言いあてるものではないでしょうか。

女の子のすべてを受け止めて

3年前まで勤めた新聞社で、長く大阪ゆかりの作家を取り上げる連載を担当しました。「浪花女を読み直す」と題して足かけ7年続けたものですが、じっくり本を読んでたっぷり書ける楽しい仕事でした。大阪ゆかりの作家には織田作之助をはじめ、司馬遼太郎、山崎豊子、小松左京、川端康成など多士済々、昭和文壇に燦然と輝く一派をなしているのですが、名前は知っていても作品自体は読んだことがない、という例はたくさんあります。

実は田辺聖子もその一人。恥ずかしながら週刊誌の人気コラム「カモカのおっちゃん」は愛読したけれど、小説の方はちゃんと目を通した記憶がありませんでした。ところが、連載で取り上げるため、全集で代表作を読み、母校の樟蔭にある田辺聖子文学館に足を運んで、印象ががらりと変わりました。おセイさんと呼び慣わしてしまう大阪のおばちゃん的イメージは刷新され、なんと鋭い、なんと革新的フェミニストであることか、と気づかされたのです。

例えば、評伝『花衣ぬぐやまつわる わが愛の杉田久女』(集英社文庫)の鋭さ。近代女流俳句の先駆者とされながら、巨匠・高浜虚子に疎まれ、狂死したとして長く人々の好奇の目にさらされてきた久女伝説を、丹念な資料と調査でくつがえし、その後の久女再評価の大きな足掛かりとなりました。女性が創作活動をするに狭隘(きょうあい)だった時代背景、興味本位にモデル小説に仕立てた松本清張

や吉屋信子の罪。一方で、良妻賢母の規範から逃れられず足元をすくわれる久女の苦悩もあますところなく描き出し、読み応えある一冊です。その吉屋信子についてはその後、原稿用紙2300枚の力作『ゆめはるか吉屋信子 秋灯机の上の幾山河』（朝日文庫）にまとめています。ともすれば少女小説家として軽んじられがちな吉屋作品を、田辺はかつて防空壕に持ち込むほど愛読しました。女性文化復権への願いが全編に色濃く流れています。

これら評伝の熱い筆致に比べ、作家自ら「夢見小説」と呼んで大事に書き継いだ恋愛小説は、現代風俗をうまく取り込み軽いタッチの読み物です。でもそこにも、それでいいのよ、とやさしく肩をたたく女性たちへの励ましがあふれています。主人公の多くが30歳を過ぎた独身女性。仕事と恋に生き、自分の夢を追いかけて、ときに現実の厳しさに苦い思いもしますが、読後感はさわやかです。中でも乃里子を主人公にした長編三部作『言い寄る』『私的生活』『母をつぶしながら』（講談社文庫）は、発表から30年以上たった2007年に復刻され、さらに文庫本となって読み継がれている人気作です。

その文庫本解説に津村記久子は「ここには女の子のすべてがある。その善いところ（元気さ、明るさ、跳ねるような生命力）も、困ったところ（きまぐれさ、欲望への弱さ、かたくなさ）も」と書き、見事に描き切った先輩作家に敬意を表して言います。「人生は美しい、と台詞で言うのはたやすいけれど、それを物語として納得させることは至難である。乃里子という女の子がただ生きてるといふ様子だけで、それを描き尽くす。瞠目する」

笑顔の奥に“反逆の芽”

田辺聖子は実に多くの作品を残しました。単行本だけで270冊、文庫、全集、復刻版などを含めると生涯700冊の本を出しています。そして、驚かされるのはジャンルの広さです。恋愛小説、エッセー、古典、評伝。2008年に文化勲章を受賞した際、文化庁が発表した推薦理由にもそのこと

が表われています。「中年男女の心の機微や独身女性の愛と孤独を主題とした作品、入念な取材と資料収集に基づく伝記小説。また古典評論、古典取材の新作、加えて身近な話題を鋭い視点でとらえた軽妙なエッセー。優れてユニークな作家として幅広く多彩な作品を次々と執筆し、多くの読者を獲得し、独自の作風でもって我が国文学界に新生面を拓き、斯界の発展向上に貢献した」

その幅広い仕事の底流に、一貫して女性たちへの応援歌が流れているのです。

2004年から2006年にかけて刊行された『田辺聖子全集』（集英社・全24巻別巻1）には本人による自作解説やインタビュー記事なども掲載されています。そこで、芥川賞作家としてデビューしながらその後、大衆小説に転じたとして批判が少なくなかったこと。長く書評や文壇の賞に縁遠かったのに、評伝小説や古典に手を染めたとたん、さまざまな文学賞の授賞が相次いだことなどを記し、その世間の偏狭さを軽やかに笑い飛ばす一方で、痛烈な皮肉も口にしています。「ロバが口きいたと思ったんやない？」

この痛快なる諧謔。

全集の編集委員をつとめた菅聡子（元お茶の水女子大学教授）は田辺聖子を「女手の反逆者」と位置づけ、こう語っています（別巻1）。

「女性がものを書くということをめぐる、あるときは露骨な、あるときは暗黙の了解といったさまざまな形での規範があったのは樋口一葉の時代から変わることはない。それらは主として男性中心主義的な考え方に基づいて形成されてきた。しかし反逆者たらんとした女性作家たちは、硬軟・巧拙さまざまな戦略をとりつつ、社会の抑圧と闘ってきた。田辺がとった戦略は軟にして巧。にこにこしつつ反逆の芽を育ててきたのだ」

なにはともあれ、読んで楽しい田辺作品、ぜひとも読み継いでいきましょう。



いしの のぶこ
石野伸子
さん

石野伸子さんには、8月にセンター主催講座でも登壇していただきます。ぜひ、ご参加ください。（講座案内ページ参照）

元産経新聞大阪本社編集委員。
主に文化部で生活面など担当。
文化部長などをへて2019年5月退社。
著書に『女50歳からの東京ぐらし』（産経新聞出版）、
『浪花女的読書案内』（産経新聞編集センター）など。
帝塚山派文学学会運営委員。



おすすめ図書

図書・情報スペースでは、男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信しています。
図書貸出は、ひとり3冊・2週間までです。

『イグアナの娘』

2002年・小学館 文庫

萩尾望都 著



なぜか母にだけは生まれてきた娘がイグアナに見え、愛することができない。そんな母娘の愛憎劇を描いた代表作ほか、様々な葛藤を描いた6編の物語を収録した短編集。20年経っても色あせない魅力を持つ物語ばかりです。



『ふしぎの国のバード』 既刊1～9巻

2015年・KADOKAWA

佐々大河 著



舞台は明治初頭の日本。実在したイギリス人女性冒険家、イザベラ・バードとその通訳である伊藤鶴吉が東京から蝦夷を目指す旅を描いたコミックス。イギリス人である彼女だけでなく、現代に生きる私たち読者も当時の日本の姿にたくさん驚かされます。

『ひとまず上出来』

2021年・文藝春秋

ジェーン・スー 著



40代を迎えた著者が年齢とともに「自分にジャストサイズ」になっていく価値観や身の回りのことについて書いたエッセイ集。1つ1つのエッセイが短いのでサクサク読めます。「一筋縄ではいかない女が好む髪型はツーブロック」など、笑えて共感できる文章ばかりです。

『言い寄る』

2010年・講談社文庫

ソロプチ文庫から

田辺聖子 著



31歳のフリーデザイナーの乃里子を主人公にした、乃里子三部作の第一作。自由なひとり暮らしを楽しむ乃里子は様々な男性に言い寄られ、恋愛を楽しんでいる。しかし、大本命の幼なじみの五郎には言い寄っても振り向いてもらえない…。「言い寄る」ことと「言い寄られる」ことを軽快に描いた作品です。

講座・イベントレポート

「ここいろミモザの日」 2022年3月5日(土)～6日(日)

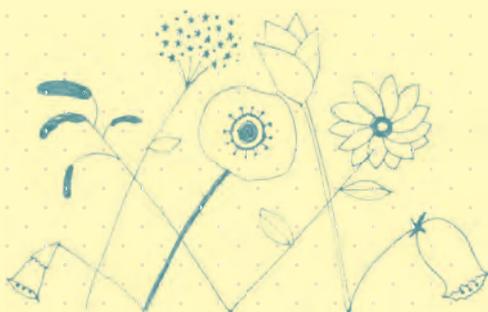
登録団体の企画イベント・展示や、市民企画の講座など、2日間に渡って開催しました。子どもから大人まで多くの参加があり、なごやかな「ここいろ ミモザの日」になりました。



男女共同参画・国際セミナー
『アジアの女性と手をつなぐ』



データから考えてみる
『専業主婦の理想と現実』



相談案内

相談予約電話番号 **072-781-5516**

一時保育 1歳～就学前まで(無料)、予約時にお申し出ください。



さまざまな悩みを整理し、自分らしく次の一歩を踏み出すための専門のカウンセラーや弁護士が、あなたと一緒に考えます。相談方法は、面接と電話相談があります。相談は無料、秘密は厳守いたします。

相談事業名	曜日	時間	備考
女性のための悩み電話相談	月曜日 第1日曜日	10時～14時	直通電話 072-781-5531
女性のためのカウンセリング	火曜日 (1回50分)	10時～14時 ※第2火曜 16時～20時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のための法律相談	第1水曜日 (1回45分)	10時～13時	面接・要予約 (一時保育有)
女性のためのチャレンジ相談	第2木曜日 (1回50分)	10時～14時	面接・要予約 (一時保育有)
男性のための悩み電話相談	第1土曜日	15時～18時	直通電話 072-781-5532
ハローワーク伊丹職員による女性と子育て両立のための就労支援相談	偶数月 第4金曜日 奇数月 第2水曜・第4金曜日 (1回50分)	9時～12時	面接・予約優先 (お子様同伴可)

【セクシュアルマイノリティ相談】

専門相談員が対応、秘密は厳守します

毎週金曜日: 15～18時 ※概ね1回30分程度
072-767-1012(直通)

24時間受付の
セクシュアルマイノリティ相談フォーム



QRコードを読み取り入力してください。
(兵庫県電子申請共同運営システム e-ひょうごのサイトが開きます)

親(先生)や友人に自分のことを伝えたい

自分の性別になんとなく違和感がある

自分はLGBTなのか?よく分からない

子ども(生徒)が性別のことで悩んでいるようだ

友人・家族からのカミングアウトを受けたがどうすれば良いか

ここいろ市民ネット メンバー募集!

伊丹市在住・在勤・在学・市域で活動する個人またはグループで、ジェンダー平等の推進を目指す方であれば、どなたでもメンバーになることが出来ます! 皆様のご参加、お待ちしております。

メンバー登録
はこちらから



女の子のための電気工作教室
『紙コップロボットを作ろう!』



子どもへの暴力防止
『CAPワークショップ』



『ここいろあんしん防災講座』



『性の話を気軽にオープンに!!』
～幼児期からの性教育を考えよう～

講座案内

「性別に関わりなく、誰もが自分らしく生きられる社会づくりの拠点」施設として、男女共同参画の学習を目的とする講座を実施しています。

こころ ジェンダー講座

伊丹市は、性別に関わりなく自分らしく生きられる社会を、次世代に引き継ぐ豊かなまちをめざしています。ジェンダー平等実現のために、高齢化社会・政治など身近なことに気付き、考えを深めてみませんか。

5/14～5/28
(各土曜日)
10:00～12:00
[3回講座]

①	5/14 (土)	ジェンダーとは? ～高齢化社会とジェンダー～	田上 時子さん (NPO法人女性と子どもの エンパワメント関西理事長)
②	5/21 (土)	日常生活における思い込み ～無意識の思い込みに意識を向ける練習～	横山 由紀子さん (兵庫県立大学 国際商経学部教授)
③	5/28 (土)	ジェンダー視点から見る 女性と政治 ～ジェンダー平等実現のために～	森屋 裕子さん (フィフティ・ネット代表)

対象：テーマに関心のある方20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)
申込み：電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

一歩踏み出したい女性のための「私の自己肯定感」育て方講座

「一生懸命頑張っているのに、何だか生きづらい、前に進めない。」ということは、自己肯定感と関係があるのかもしれない。今からでも大丈夫!自分で自己肯定感を育ててみましょう。

6/10～7/1
(各金曜日)
10:00～12:00
[4回講座]

①	6/10 (金)	自己肯定感とは	井山 里美さん (NPO法人女性と子どもの エンパワメント関西事務局長)
②	6/17 (金)	過大評価と自己肯定感	
③	6/24 (金)	考え方のクセと自己肯定感	
④	7/1 (金)	私らしく生きていくための 自己肯定感	

対象：テーマに関心のある女性20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)
申込み：5/10(火)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

なぜ、DVが起こるのか

身体や命の危険を感じても、加害者から逃げられないDV被害者の心理やDVが起きる‘からくり’を考えます。

対象：テーマに関心のある女性20人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)
申込み：5/6(金)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

6/25(土)
14:00～16:00

講師 杉本 志津佳さん
(フェミニストカウンセリング堺代表)

座って出来る椅子ヨガ&気づきの瞑想 マインドフルネス

いつでもどこでも、身体を動かすのが苦手な人や、どんな年代の方も無理なく実践できる「椅子ヨガ」。マインドフルネスを取り入れ、ストレスへの対処法や、リラクゼーション法も学びます。 テーマ：「呼吸に気づく」

対象：テーマに関心のある方15人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)
申込み：5/16(月)9:00～ 電話・窓口・センターHPで受付(先着順)

6/27(月)
10:30～12:00

講師 富田 あかりさん
(ヨガインストラクター)

“私”に出会う自分発見ワークショップ

多様な生き方をめざして、人と出会い、“私”と出会うワークショップを体験してみませんか。自分らしさに気づき、自尊心を高めるワークショップです。

7/4.11.25
(各月曜日)
各10:00～12:00
[3回講座]

①	7/4 (月)	私の感情曲線 ～簡単にできる自分史づくり～	宮本 由起代さん (NPO法人 心のサポート・ステーション 代表理事)
②	7/11 (月)	バスは待ってくれない ～効果的なチームワークを探る～	
③	7/25 (月)	これが「私」。「私」に出会う ～コラージュで自己表現～	

対象：テーマに関心のある女性15人
参加費：無料
一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)
申込み：6/1(水)9:00～ 電話・窓口・センター HPで受付(先着順)

ここいろ☆ぱぱサロン 子育てを語ってみよう

速さや効率が求められる仕事と違うのは、子育ての世界には「正解がない」こと。今まで誰も話したことのない「パパの子育て」について、思いを語ってみませんか。

7/30(土)

10:00～12:00

対象：子育て中の男性15人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：6/1(水)9:00～ 電話・窓口・センター HPで受付(先着順)

講師・進行役 福島 充人さん
濱田 智崇さん
新道 賢一さん

おせいさんからの応援歌～夢をキーワードに読み解く田辺聖子作品～

ユニークで鋭い革新的なフェミニストであり、幅広いジャンルの作品を生み出したおせいさんこと田辺聖子さんの、読んで楽しい田辺作品に触れてみませんか。先を見通せない変化の時代を生きる私たちに、おせいさんからのメッセージが残されています。

①	8/6 (土)	田辺聖子が見た夢① 軍国少女からの脱皮	石野 伸子さん (元産経新聞 大阪本社編集委員)
②	8/27 (土)	田辺聖子が見た夢② 大阪弁でサガンをする	

8/6.27(各土曜日) 各10:00～12:00

[2回講座]

対象：テーマに関心のある方20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき1回300円、要予約)

申込み：7/1(金)9:00～ 電話・窓口・センター HPで受付(先着順)

はじめてのCAPワークショップ～小学1・2年生対象～

CAP(キャップ)とは、子どもが暴力から自分を守るための人権教育プログラムです。寸劇やディスカッションを交えながら、子ども達に、「自分の大切さ」を教え、一人ひとりが本来持つ力を引き出す(=エンパワメント)プログラムを体験してみませんか。

8/7(日)

13:30～15:00

対象：子どもワークショップ15人、大人ワークショップ20人

参加費：無料

一時保育：6人(1歳～就学前まで、一人につき300円、要予約)

申込み：7/1(金)9:00～ 電話・窓口で受付(先着順)

ファシリテーター
NPO法人女性と子どもの
エンパワメント関西スタッフ

ここいろカフェ



お茶を飲みながら、一緒に語り合いませんか。テーマを設けてファシリテーターが進行します。

定員：各回10人 参加費：無料
(お子さん連れの参加も可)

申込み：電話・窓口で受付(先着順)

日時	テーマ	受付開始
5/21(土) 14:00～15:30	男女平等ってすすんでる?	5/2(月)～
6/19(日) 10:00～11:30	心地いい居場所って?	6/1(水)～
7/30(土) 14:00～15:30	燃えつきそうなあなたへ	7/1(金)～
8/30(火) 19:00～20:30	嬉しいことば・傷つくことば	8/1(月)～

ファシリテーター：むこがわCAPスタッフ/NPO法人あなたらしくをサポートスタッフ

ここいろ

愛称「ここいろ」は、
一人ひとり(ここ=個々)が
自分の色(いろ)を彩ることのできる
拠点施設であることを願って、
公募で名付けられました。

伊丹市立
男女共同参画センターは
SDGs を支援しています

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



目標 5(ジェンダー)
ジェンダー平等を実現しよう

開館時間

月～土 午前9時～午後9時
日曜日 午前9時～午後5時30分
*日曜日は月2回のみ開館
第1・3日曜日(1・5・8月除く)

休館日

日曜日(第1・3日曜除く)、祝日
年末年始(12/29～1/3)

アクセス

阪急伊丹駅から徒歩約7分/JR伊丹駅から徒歩約8分
お車でのご越しの際は、宮ノ前地区地下駐車場(有料)等をご利用ください。

ホームページ



facebook



LINE



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-2-2 伊丹商エプラザ5階

電話: 072-781-5516

FAX: 072-781-5530

<https://www.itami-kokoiro.jp>